

ステータス:	終了	開始日:	2008/06/27
優先度:	通常	期日:	2008/07/11
担当者:		進捗 %:	100%
カテゴリ:		予定工数:	0.00時間
対象バージョン:		作業時間の記録:	0.00時間
説明			
<h2>状況(2008.07.11)</h2> <p>V5.40にてリリース済み。</p> <p>(原因)今までのプログラムは、調性無視を明に処理しているのは“h”のみであった。何故なら“b”の方は初めから半音階の音価であるため、調性記号で指定されるシャープやフラットが掛からない(対象になるはずがない)と判断したためである。ところが、音部記号?を使用した場合は、たとえ“b”であっても、全音部分にシフトする場合がある。したがって、“b”も調性を無視する処理を加える必要がある。</p> <p>(対処)以下の処理仕様に改修した。 ドイツ音名の場合、音名“b”は調性を無視する。 また、音名“h”はフラット系の調性を無視する。</p> <p>(追記)厳密に言うと本件の対処で上位互換が崩れるが、音部記号と独音名を併用するデータは極めて少ないと想定され、現実的には問題がないと判断している。また、本件はあくまでもバグの対処であるため、積極的に互換性を崩す仕様変更ではない。</p>			
<h2>概要(2008.06.27)</h2> <p>アルト記号の場合のドイツ式表記の場合の h b の扱いに関する質問です。 音部記号に関わらず、第3線に音符がある場合、調性(又は臨時)記号でフラットが付いている場合 b フラットがない場合 h と記述する、と思ってきましたが、その理解であっているのでしょうか?</p> <p>いま入力に挑戦中の曲に 6つの調が出てきて、ピオラのパートの音が変わり、分からなくなりました 以下の例を演奏してみてください</p> <p>¥-----;変ト長調の場合</p> <p>;ト音記号 #A0 x2 ?0 o3 g4 a b &lt; c d e f g _2 ;b でOK</p> <p>;ヘ音記号 #A0 x2 ?6 o5 e4 f g a b &lt; c d e _2 ;b でOK</p> <p>;アルト記号 #A0 x2 ?3 o4 f4 g a b &lt; c d e f _2 ;b ではおかしい #A0 x2 ?3 o4 f4 g a h- &lt; c d e f _2 ;OK h- と記述しなければならない?</p> <p>;テノール記号 #A0 ?4 x2 o4 a4 b &lt; c d e f g a _2 ;これは b でOK</p> <p>アルト記号だけ扱いが違うのか、勘違いかな?</p>			
関連するチケット:			
関連している Release # 118: Muse V5.37		終了	2008/06/16